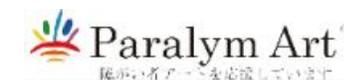




2025年3月期 決算説明会

2025年5月20日



昭和産業株式会社 (<https://www.showa-sangyo.co.jp>)

- 1** 2025年3月期 業績概要
- 2 2026年3月期 業績予想
- 3 「中期経営計画23-25」進捗
- 4 その他トピックス

2025年3月期 業績ハイライト

売上高

3,344億円

減収 ▲119億円
増減率 ▲3.4%

営業利益

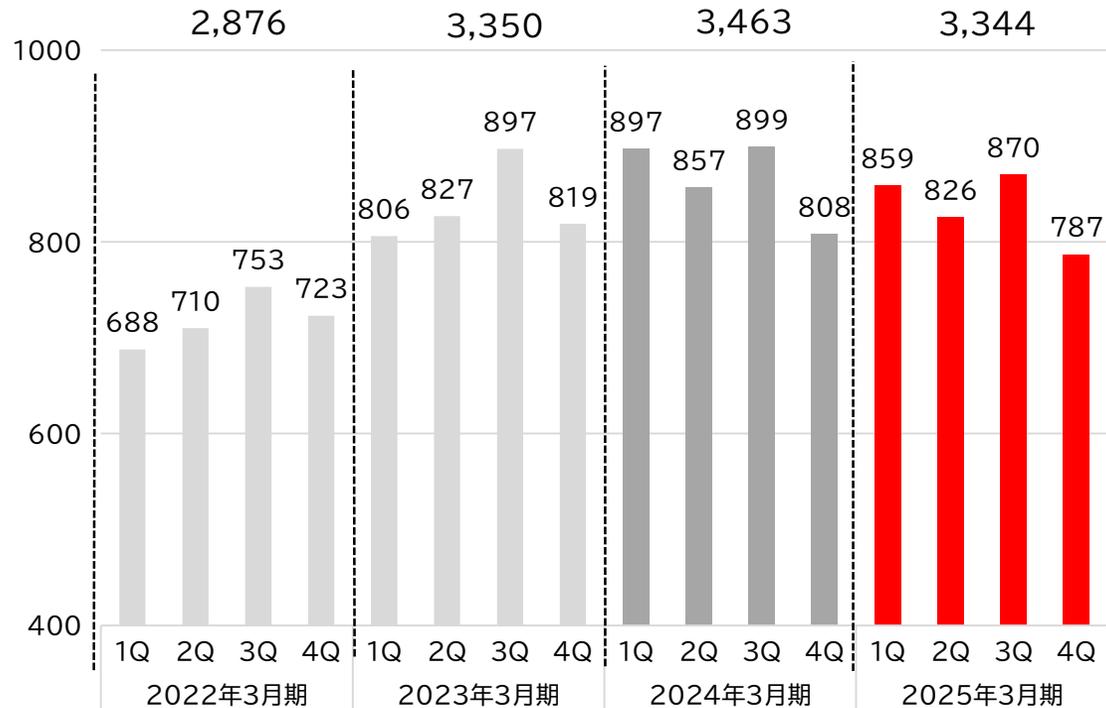
111億円

減益 ▲20億円
増減率 ▲15.4%

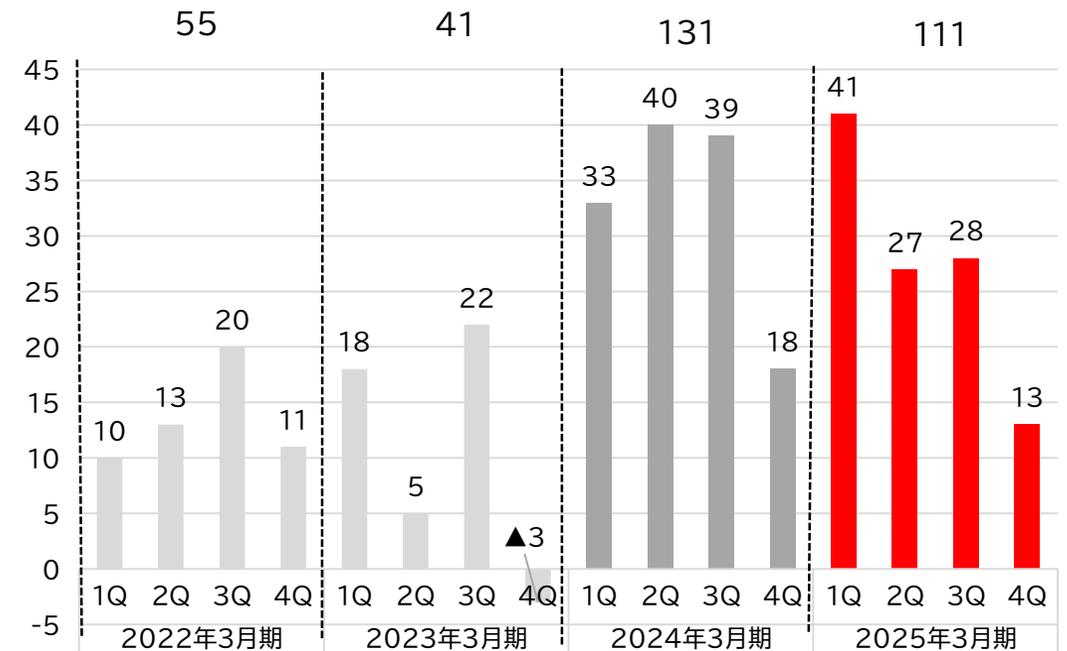
・販売数量は増加するも原料価格下落に伴う販売価格の低下により減収

・販売数量は増加するも販売価格でのマイナス分と売上原価でのプラス分がほぼ相殺
・人件費および物流費等の販管費増により減益

(単位:億円)



(単位:億円)

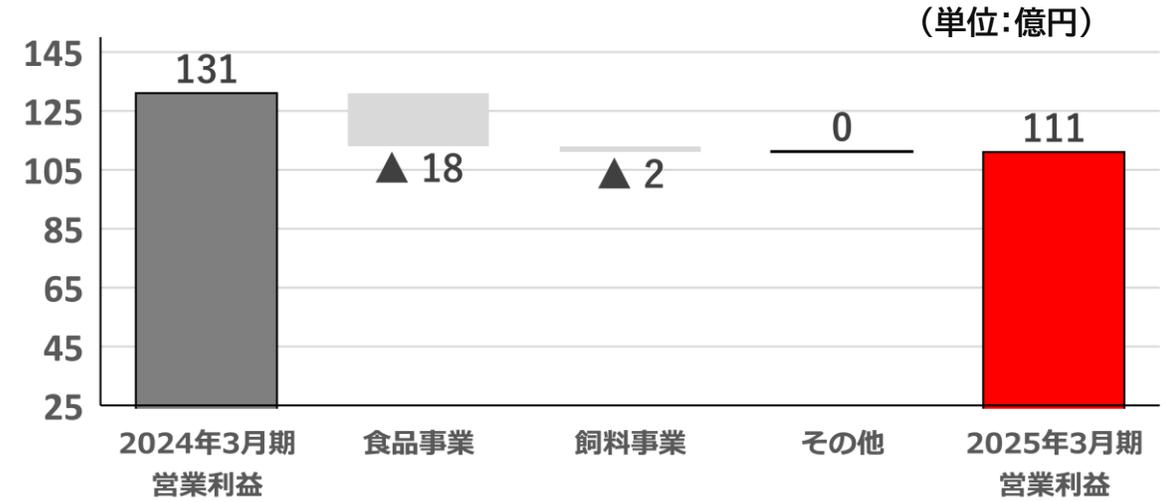
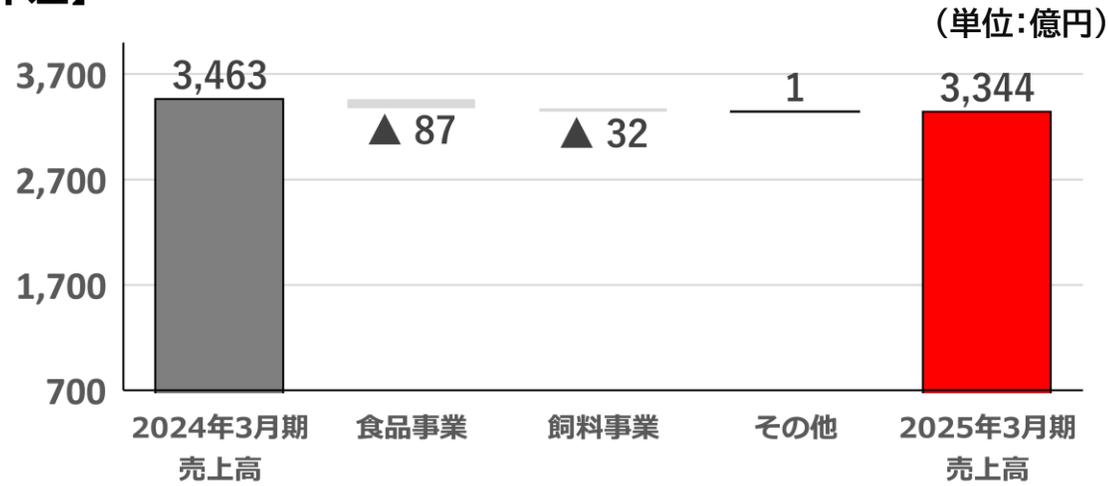


2025年3月期 業績ハイライト

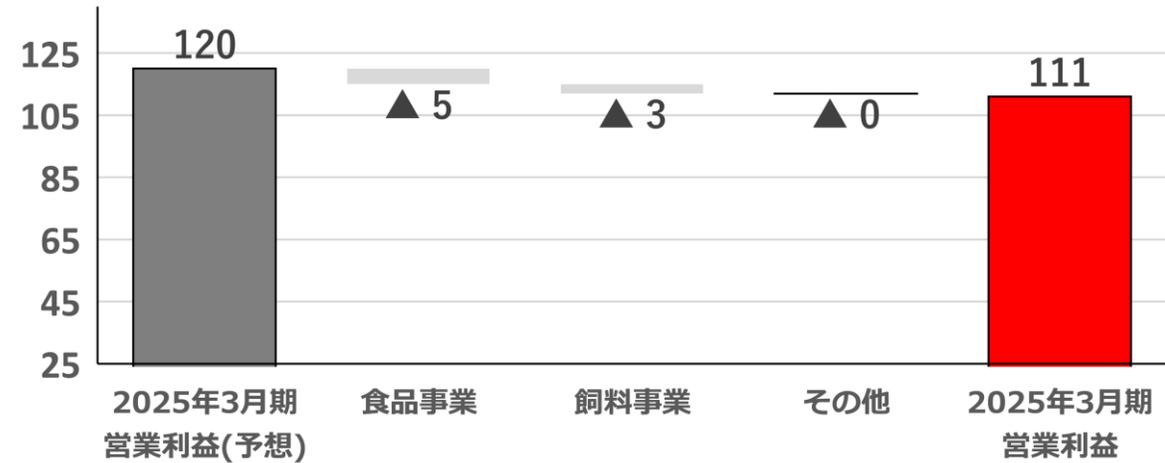
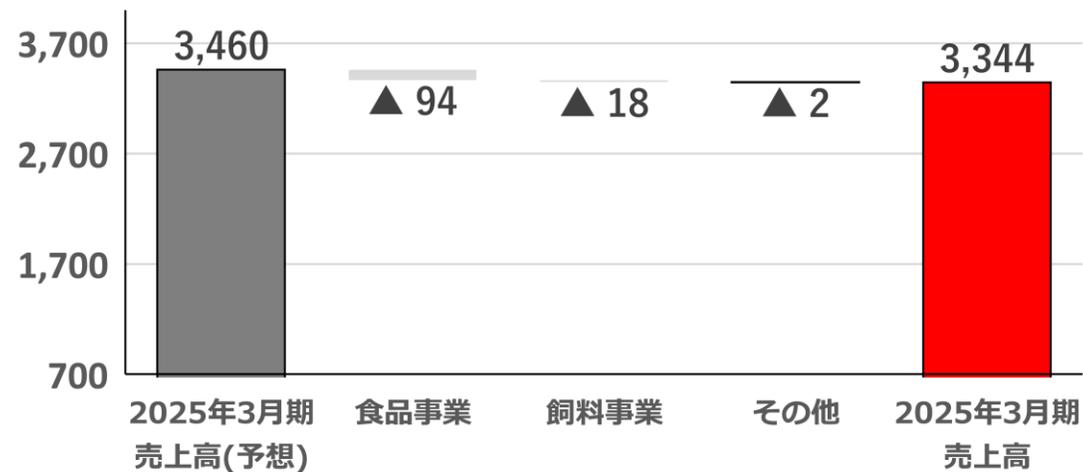
売上高 3,344億円

営業利益 111億円

【前年差】



【業績予想差】

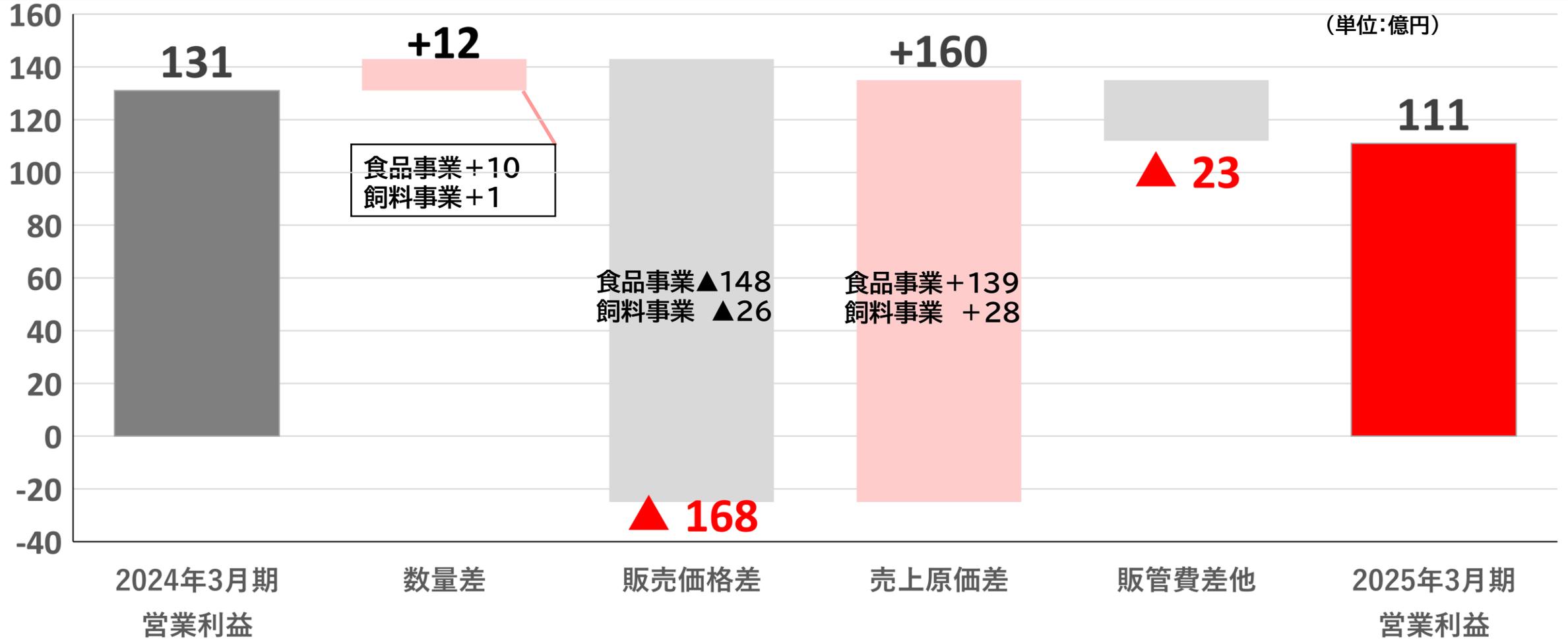


2025年3月期 営業利益の増減要因

営業利益

2025年3月期 **111** 億円

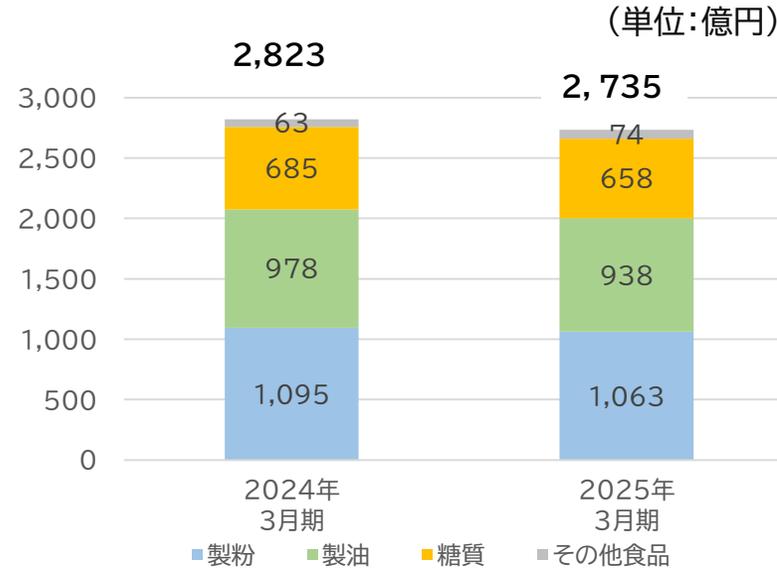
前年差 **▲20** 億円



2025年3月期 セグメント別売上高・営業利益

食品事業 売上高

2025年 3月期	2,735億円
前年差	▲87億円
増減率	▲3.1%

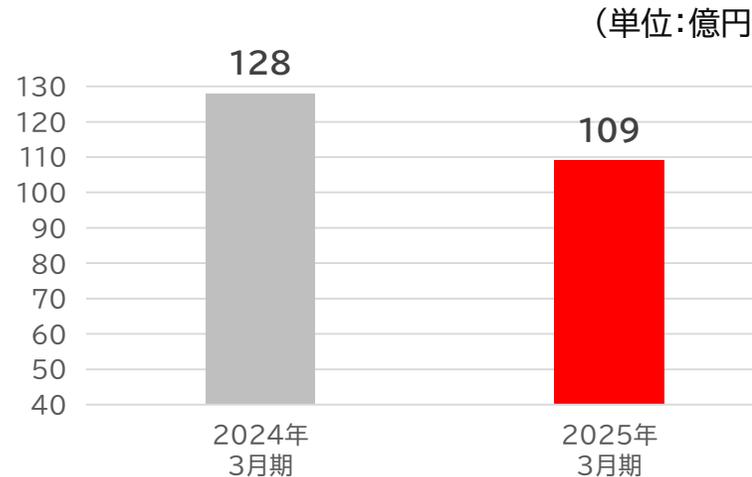


販売数量は前年を上回るも、主原料価格の下落により販売価格が前年を下回り、減収

売上高	2024年 3月期	2025年 3月期	前年差	増減率
製粉	1,095	1,063	▲31	▲2.9%
製油	978	938	▲39	▲4.1%
糖質	685	658	▲27	▲4.0%
その他食品	63	74	11	17.6%
食品事業合計	2,823	2,735	▲87	▲3.1%

食品事業 営業利益

2025年 3月期	109億円
前年差	▲18億円
増減率	▲14.6%



需要回復とその好機を捉えた施策の実行により、販売数量は前年同期を上回るも、販管費増の影響が大きく、減益

営業利益	2024年 3月期	2025年 3月期	前年差	増減率
食品事業	128	109	▲18	▲14.6%

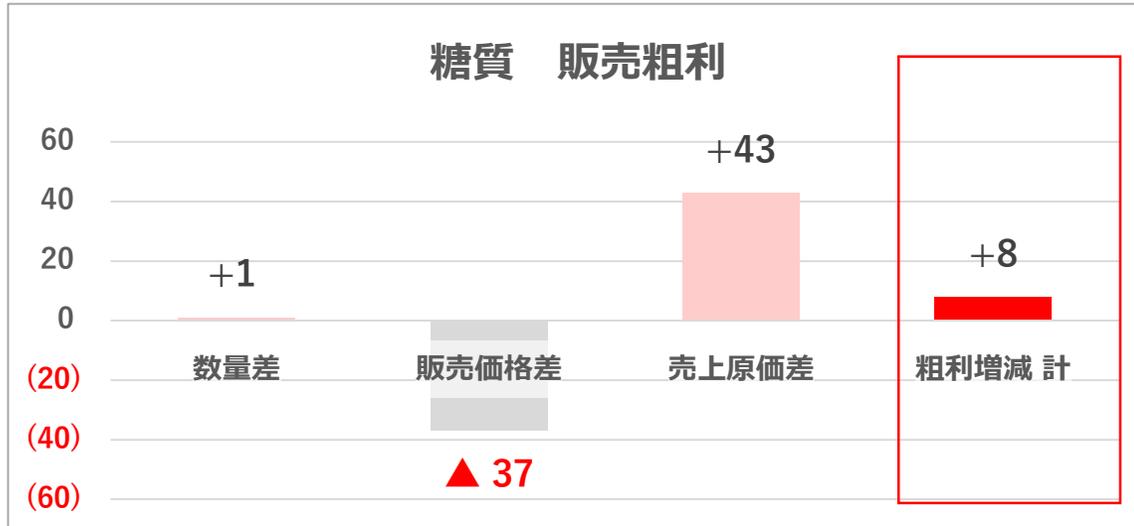
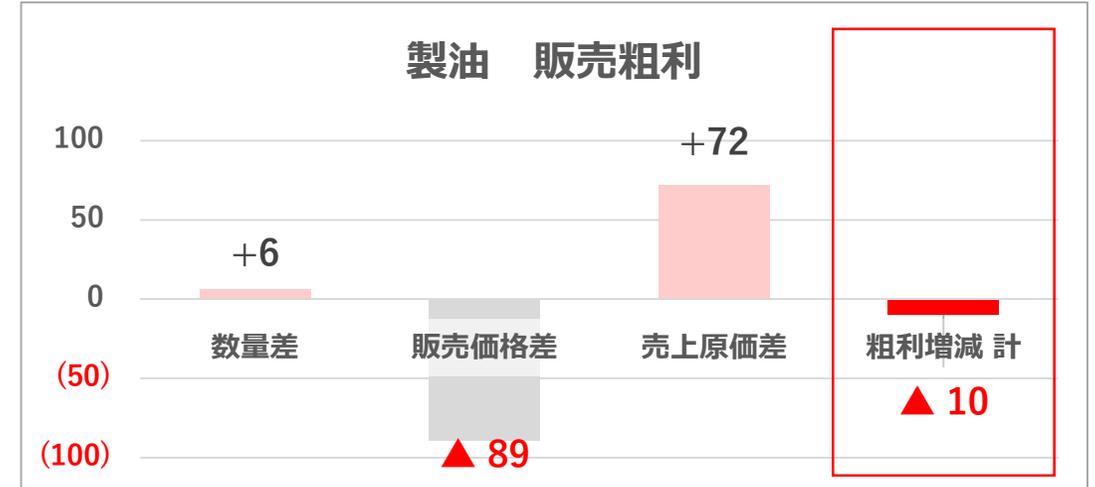
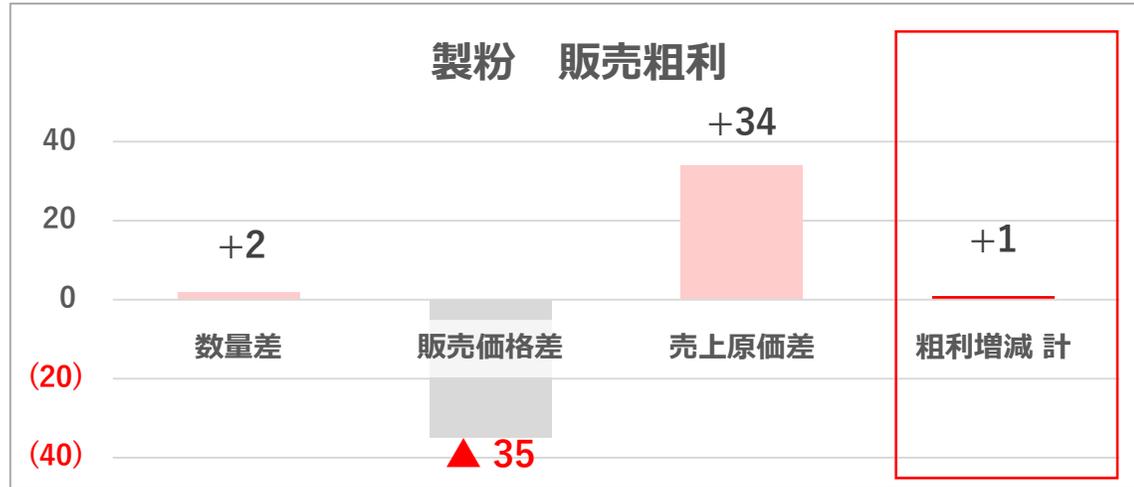
2025年3月期 営業利益の増減要因(食品事業カテゴリ別)

食品事業営業利益

2025年3月期 **109** 億円

前年差 **▲18** 億円

(単位:億円)



販売粗利差 + 1億円

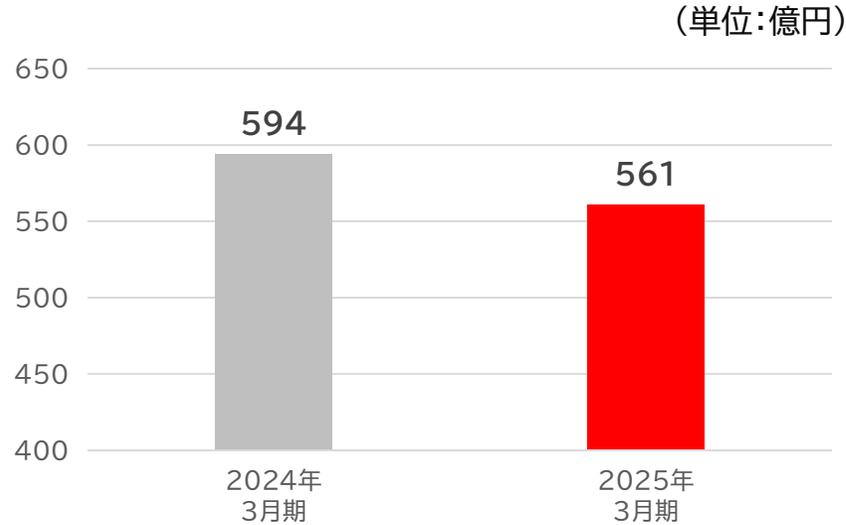
販管費差等 ▲20億円

食品事業営業利益差 ▲18億円

2025年3月期 セグメント別売上高・営業利益

飼料事業 売上高

2025年 3月期	561億円
前年差	▲32億円
増減率	▲5.5%

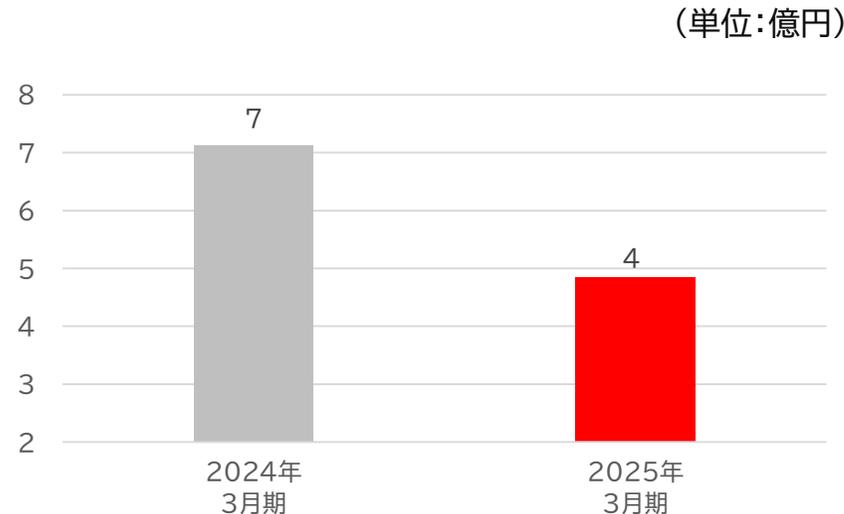


原料価格下落に伴い配合飼料の販売価格が前年を下回ったこと、鶏卵需給の緩和により鶏卵相場が軟調に推移したことで、減収

売上高	2024年 3月期	2025年 3月期	前年差	増減率
飼料事業	594	561	▲32	▲5.5%

飼料事業 営業利益

2025年 3月期	4億円
前年差	▲2億円
増減率	▲32.0%



鶏卵生産が回復したことで、配合飼料および鶏卵の販売数量が前年を上回るものの販管費増の影響により、減益

営業利益	2024年 3月期	2025年 3月期	前年差	増減率
飼料事業	7	4	▲2	▲32.0%

連結貸借対照表

■連結貸借対照表

(単位:億円)

項目	2024年3月末	2025年3月末	増減
資産合計	2,622	2,555	▲67
流動資産	1,227	1,127	▲100
固定資産	1,394	1,427	32
負債合計	1,289	1,168	▲121
有利子負債 (リース債務含む)	539	505	▲34
その他負債	749	662	▲86
純資産合計	1,332	1,386	53

<主な要因>

●資産の部

- (-) 売上債権、棚卸資産の減少
- (+) 投資有価証券の評価額増加

●負債の部

- (-) 年度末の資金需要減
- (-) 支払手形及び買掛金の減少

●純資産の部

- (+) 当期純利益の計上
- (-) 自己株式の取得・消却、配当支払い

原価に関する市況情報

■コスト環境【原料・為替・エネルギー】

- ・原料穀物相場は、昨年実績と比較すると軟調に推移
- ・海上運賃は3Q以降軟調傾向
- ・為替相場は引き続き不安定な状況

	2025年3月期				2026年3月期 前提
	4-6月実績	7-9月実績	10-12月実績	1-3月実績	
小麦 円/t ※1	68,240	67,810	67,810	66,610	63,451
大豆 円/Bu ※2	1,171	1,168	1,000	1,002	1,039
菜種 C\$/MT ※3	609	632	598	619	628
トウモロコシ 円/Bu ※4	429	430	398	446	460
海上運賃 us\$/t ※5	62.3	62.3	57.2	45.4	55.0
為替 円/us\$ ※6	150.96	157.44	144.65	154.67	148.00
LNG 円/kg ※7	94.8	93.8	92.1	97.0	94.5

※1:該当期間3か月前の5銘柄平均価格 ※2:該当期間の2か月前のシカゴ相場平均 ※3:該当期間の2か月前のICE相場平均
 ※4:該当期間の2か月前のシカゴ相場平均 ※5:米国ガルフ-ジャパンのパナマックス船(トウモロコシベース) ※6:該当期間の2か月前のTTM平均
 ※7:該当期間の2か月前の「財務省貿易統計」月間の実績速報値より、本国の輸入品価額・数量から平均単価を算出

- 1 2025年3月期 業績概要
- 2 2026年3月期 業績予想**
- 3 「中期経営計画23-25」進捗
- 4 その他トピックス

2026年3月期 業績予想

- ・売上高は、3,400億円と前年から若干増加の見込み
- ・営業利益は、110億円とほぼ前年並み
- ・当期純利益は、前年の固定資産譲渡益による差異

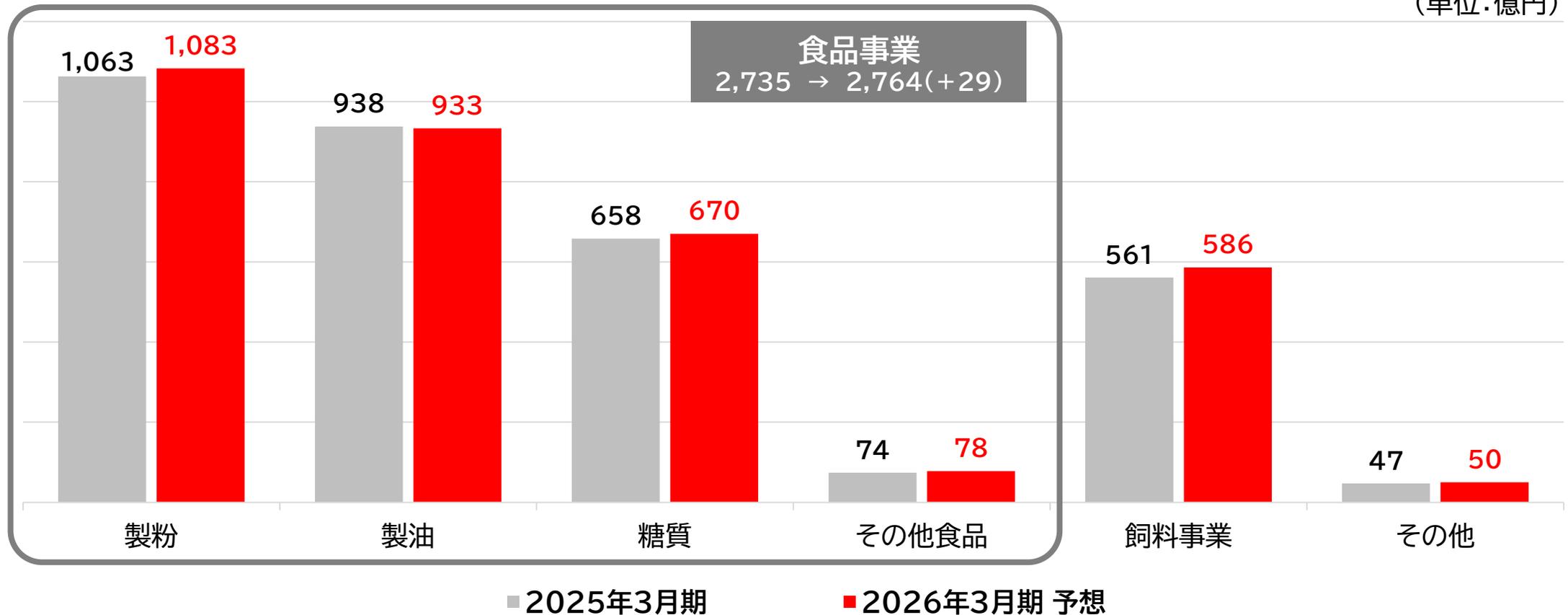
(単位:億円)		2025年3月期	2026年3月期 (予想)	増減 (前期比)	増減率 (前期比)
売上高	食品	2,735	2,764	29	
	飼料	561	586	24	
	その他	47	49	1	
	計	3,344	3,400	55	1.7%
営業利益	食品	109	107	▲2	
	飼料	4	7	3	
	その他	14	13	▲1	
	全社費用他	▲17	▲17	0	
	計	111	110	▲1	▲1.1%
経常利益		135	130	▲5	▲4.4%
当期純利益		115	95	▲20	▲18.1%

2026年3月期 業績予想(売上高・カテゴリ別)

売上高予想

2025年3月期 3,344 億円 ⇒ 2026年3月期 3,400 億円 (前年差 +55 億円)

(単位:億円)

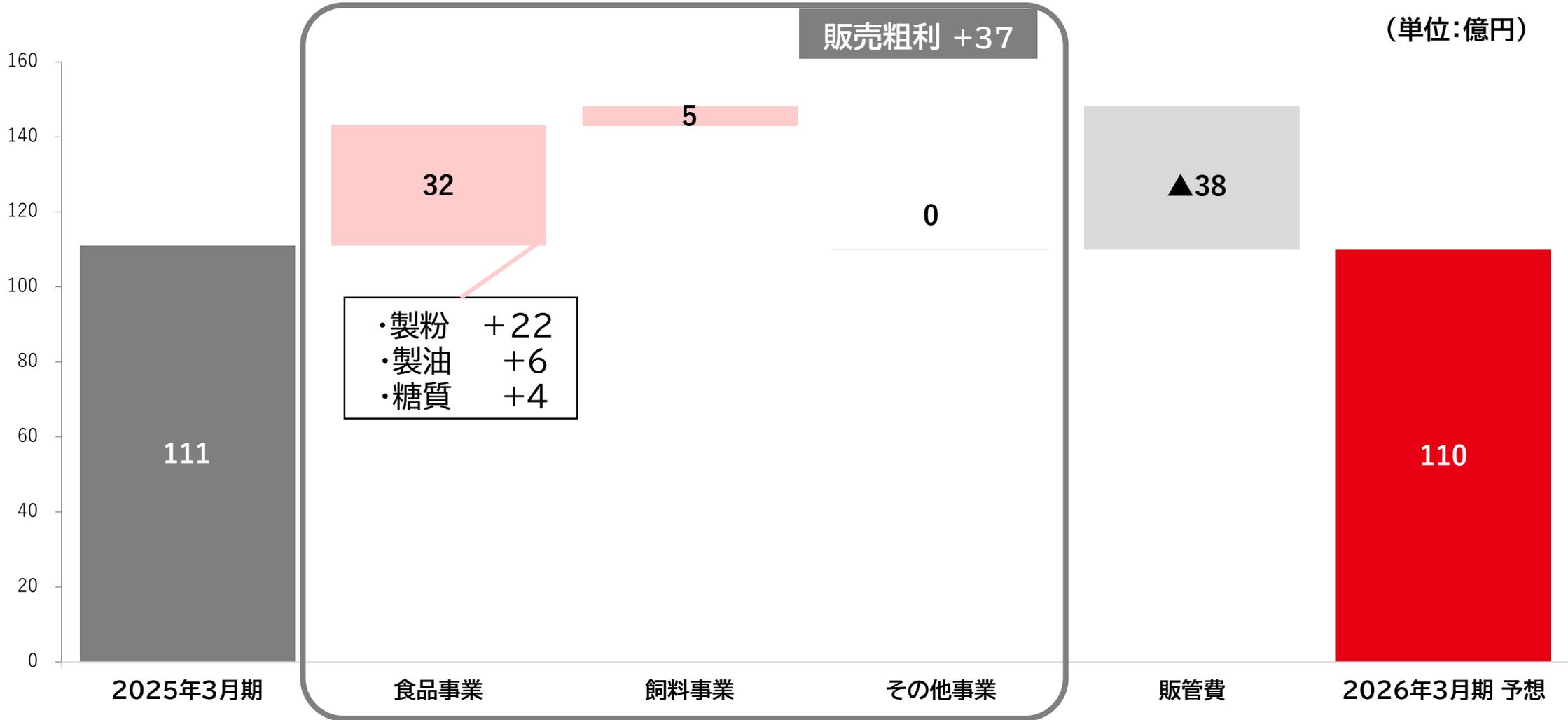


2026年3月期 業績予想(営業利益)

営業利益

2026年3月期予想 **110 億円**

前年差 **▲1 億円**



- 1 2025年3月期 業績概要
- 2 2026年3月期 業績予想
- 3 「中期経営計画23-25」進捗**
- 4 その他トピックス

「中期経営計画23-25」5つの基本戦略

① 基盤事業の強化

1. 穀物ソリューションの進化
ーワンストップ型営業組織への変革による
販売力強化
2. グループ連携による事業拡大と収益力強化
3. 商品構成の最適化
4. 差別化戦略による付加価値商品の拡販
5. 安定調達の強化

② 事業領域の拡大

1. ASEAN地域における既存事業の強化と
新たな事業展開による海外事業の拡大
2. 輸出事業の強化
3. 冷凍食品事業の拡大
4. 新規事業への挑戦
ープラントベースフード(植物由来食品)
ーファインケミカル、オレオケミカル

当社グループの持続可能を支えるサステナビリティ経営の深化

③ 環境負荷の低減

④ プラットフォームの再構築

⑤ ステークホルダー
エンゲージメントの強化

「中期経営計画23-25」財務KPI 目標と進捗

- ・各施策の確実な遂行により、経常利益やROEなどほとんどの項目を2年連続で達成
- ・CCCは、改善項目を定めて月次で管理し、キャッシュフロー経営を推進中

	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 中計目標	差異 (2022年度比)
経常利益 (億円)	65	165	135	130	200%
ROE (%)	7.1 ※1	10.2	8.8 ※2	7.0以上	—
ROIC ※3 (%)	1.8	5.3	4.4	4.0以上	2.2ポイント増加
CCC (日)	91	87.3	85.5	75	16日短縮
NET D/Eレシオ	0.48	0.35	0.31	0.6以下	

※1：2022年度は、ショーサン上尾ビルの売却により約52億円の固定資産売却益（特別利益）が発生

※2：2024年度は、本八幡ビルの売却により約26億円の固定資産売却益（特別利益）が発生

※3：ROICの定義 ROIC = 税引後営業利益 ÷ 投下資本（有利子負債（Net） + 自己資本）

税引後営業利益は、法人税等を営業利益の30%として計算

重点施策による定量効果

【2025年3月期実績(経常利益ベース)】

■23-25中計目標(対2022年度実績比) +27億円

基本戦略① 基盤事業の強化 +29億円	
1. 穀物ソリューションの進化	+4億円
2. グループ連携による事業規模拡大と収益力強化	+9億円
3. 商品構成の最適化	+3億円
4. 差別化戦略による付加価値商品の拡販	+12億円

■23-25中計目標(対2022年度実績比) +8億円

基本戦略② 事業領域の拡大 +4億円	
1. 海外事業の拡大	+5億円
2. 冷凍食品事業の拡大	▲1億円

■23-25中計目標(対2022年度実績比) +30億円

事業環境の回復・環境変化への対応 +34億円	
1. 販売数量の回復	+5億円
2. 適正な価格改定	+29億円

【2026年3月期の施策】

基本戦略① 基盤事業の強化

- ▶ 販売面および製造面ともにグループ一体となり事業構造を改革することで収益力を向上させる
- ▶ 顧客の課題解決を主眼におくユーザーイン視点のソリューション型営業の推進により新たなマーケットを創出する

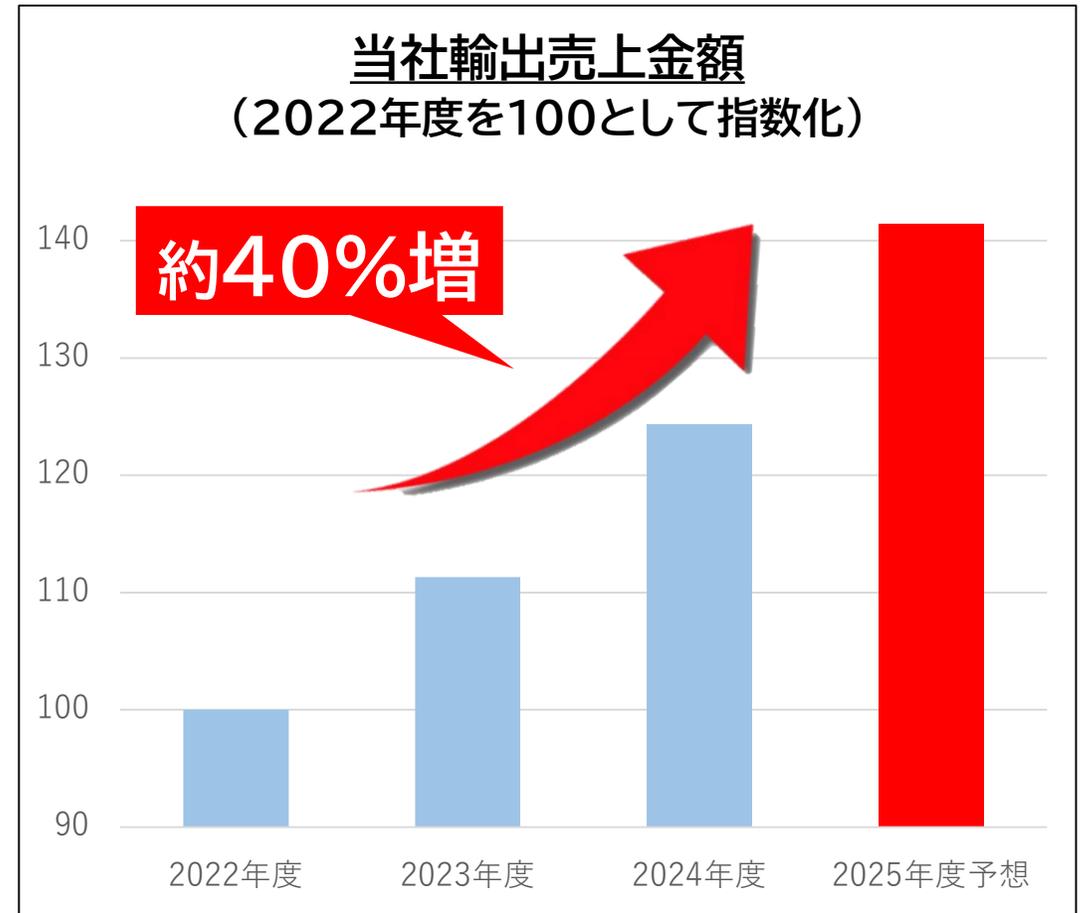
基本戦略② 事業領域の拡大

- ▶ 輸出事業の拡大に向けて、現地での商談・講習会・セミナーを通じた海外顧客との接点創出・強化
- ▶ ベトナムでの新工場建設を着実に進めると共に、M&Aや海外パートナーとの資本提携等も継続検討

事業環境の回復・環境変化への対応

- ▶ 主原料価格以外のコスト上昇(物流費・人件費・包装資材費など)に見合った適正価格の形成

海外輸出拡大に向けた戦略的取り組み



事業領域の拡大【新規事業への挑戦】

ファインケミカル

・本年中にファイトケミカルプロダクツが量産化に向けた新プラント建設・稼働

- ・スーパービタミンE(食品・化粧品)
- ・ビタミンE(食品・化粧品)
- ・植物ステロール(食品・化粧品)
- ・バイオパラフィン(化粧品)



オレオケミカル

・ファイトケミカルプロダクツとの連携
・当社グループのボーソー油脂が千葉県匝瑳市の脱炭素化推進プロジェクトに参画

- ・バイオ燃料(発電用・軽油代替)



未利用原料

飼料用原料

産業廃棄物

当社技術×オープンイノベーション によるアップサイクルの推進

燃料

化成品

農業資材

化粧品

機能性食品



廃棄物のアップサイクルに向けた取り組み

鹿島工場 糖化工程の廃珪藻土
(糖化液を濾過した後に発生する残渣)



糖化濾滓



脱色濾滓

独自技術



- ・土壤改良材
(特許 第7471122号)
- ・堆肥化促進&脱臭材



化学農薬・化学肥料の
使用量削減



脱臭効果が周辺住民や
農畜産従事者から好評



CSVの実現

ステークホルダーエンゲージメントの強化

『株主還元の充実』: 期末配当の**20円増配**を決定

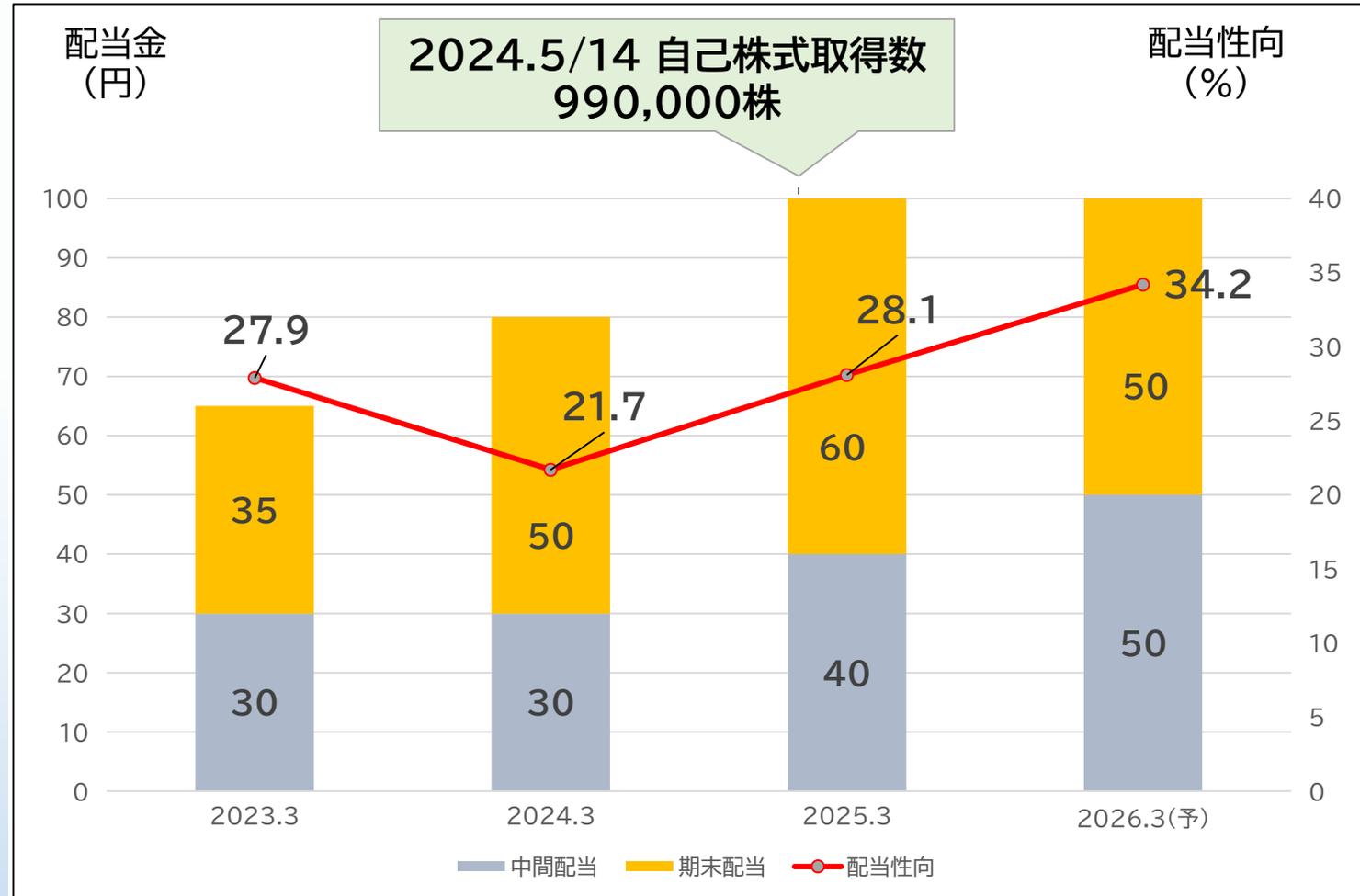
【2025年3月期 期末配当】 40円→60円

【年間配当】 80円→**100円に増配**

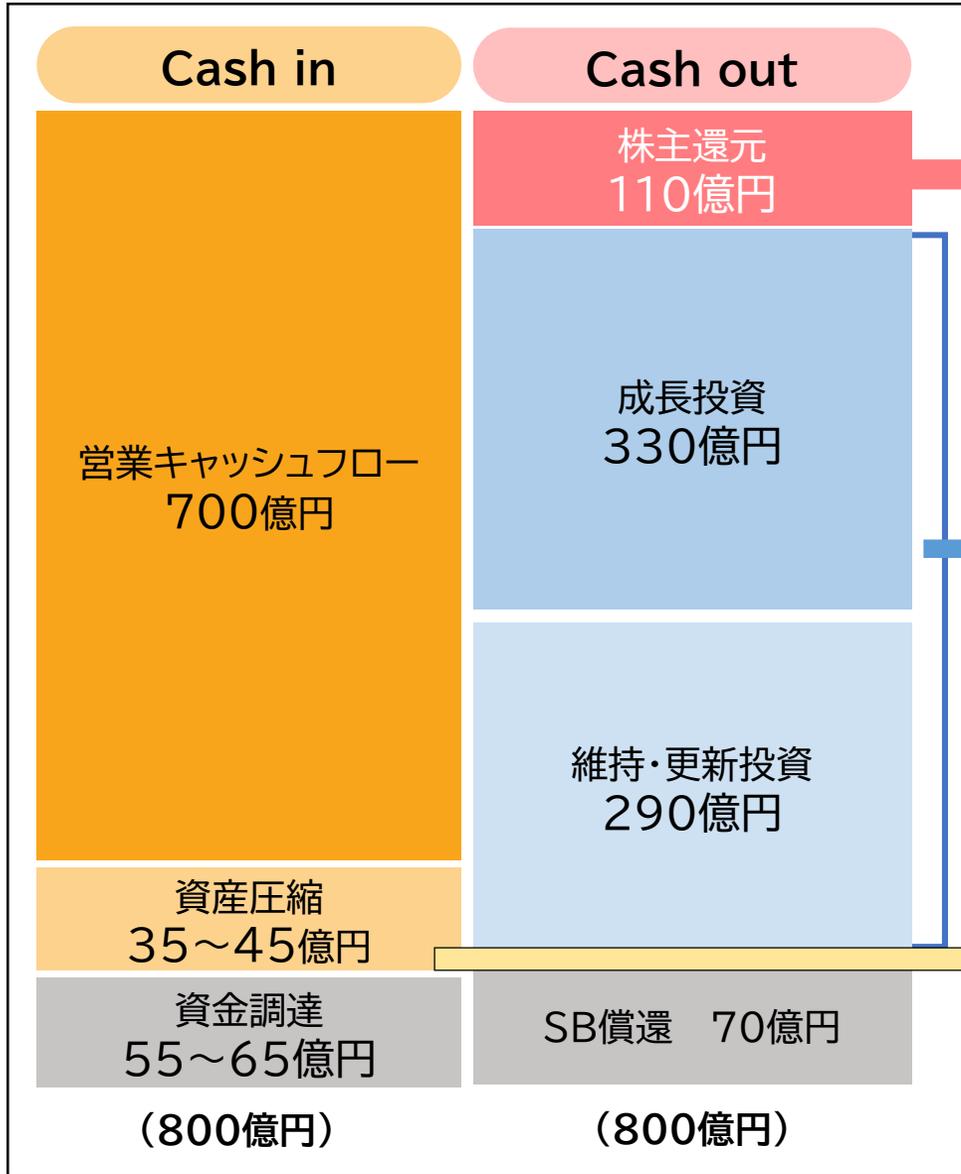
(利益配分の方針)

将来の企業成長に必要な投資と
株主還元の充実を意識しながら
配当性向30%程度を目安に

安定的な配当を継続



資金配分計画 [3年間累計] (2023年度～2025年度)



- ・安定的な株主配当(配当性向30%程度を目安)
- ・2025年3月期は1株当たり100円に増配
- ・機動的な株主還元を図るために自己株式の取得

- ・成長投資と安定製造のための維持・更新投資の実施【主な成長投資】
- ・ Showa Sangyo International Vietnam Co., Ltd.の設立
- ・ 辻製油株式会社との資本業務提携
- ・ 「ホワイト物流」および「グリーン物流」に対応した自動倉庫の更新・新設
- ・ CO₂排出量削減に向けたバイオマス発電ボイラの新規導入

- ・不動産(本八幡ビル)の売却
- ・政策保有株式の保有基準に基づく適切な縮減

- 1 2025年3月期 業績概要
- 2 2026年3月期 業績予想
- 3 「中期経営計画23-25」進捗
- 4** その他トピックス

優秀ヒット賞〈一般加工食品部門〉

もう揚げない!!焼き天ぷらの素(昭和産業)



販売数量
1.9倍

(前年比)

ユーザーイン



市場創造



新技術・食品開発賞

サワーオリゴ／サワーオリゴC(サンエイ糖化)



マルトビオン酸

||

機能性物質

- ・骨密度維持
- ・骨成分の維持
- ・ミネラル吸収促進
- ・お通じ改善



穀物ソリューション・カンパニー



昭和産業グループ

見通しに関する注意事項

本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることからその達成や将来の業績を保証するものではありません。

また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。

なお、将来における情報・事象及びそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当中期経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。

質疑応答

本日はご参加いただき、ありがとうございました

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業グループ
証券コード 2004



Paralym Art[®]
誰かの存在を応援しています

今後のIR活動にいかしたく、是非、アンケートへのご協力をお願い致します

参考資料

設備投資および研究開発費

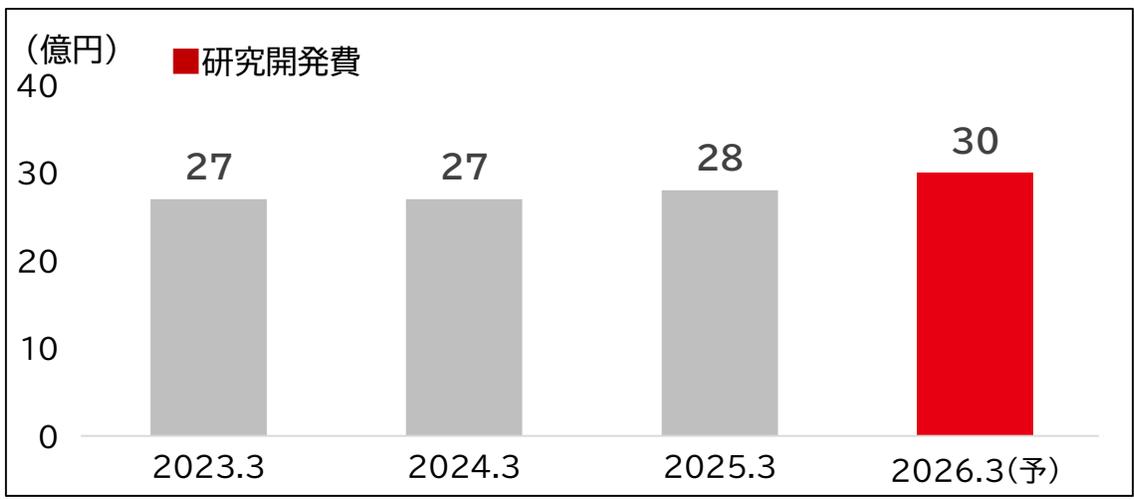
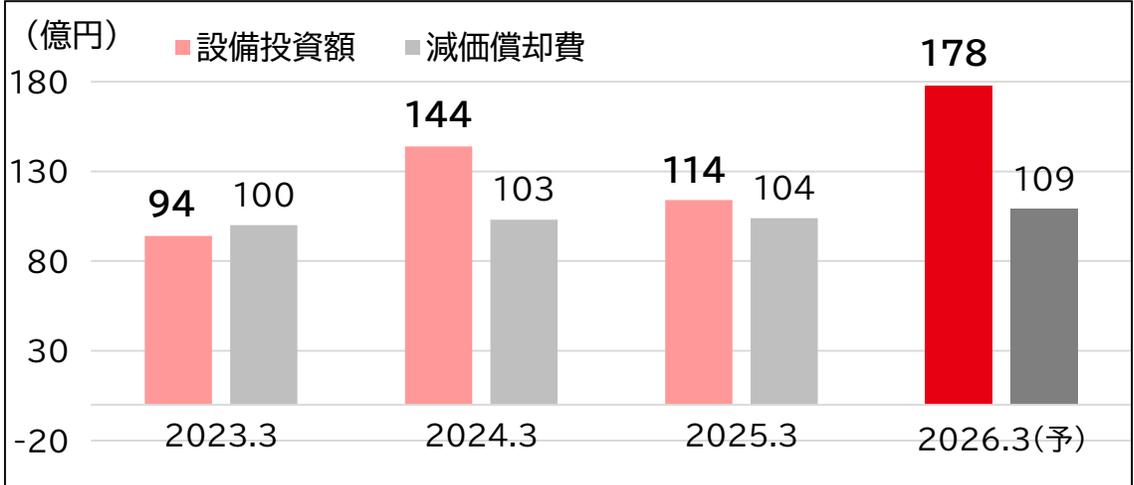
基盤事業の強化のための投資や成長領域への戦略的な投資を実施し、グループの持続的な成長を推進

主な設備投資の内容(2026年3月期)

- 成長投資
 - ・バイオマス発電ボイラ新設(2026年度稼働予定)
→約3.7万トン/年のCO2排出削減見込み
 - ・サンエイ糖化 イノベーションセンター建設
- 維持・更新投資
 - ・糖質工場 設備更新
 - ・セントラル製粉 設備更新

主な研究開発の内容(2026年3月期)

- 基盤事業の強化
 - ・CVS、外食をはじめとする多数のアプリケーション開発
 - ・新たな機能性をもつ小麦粉、油脂、糖質などの素材の高付加価値化に向けた研究開発の強化
- オープンイノベーションの推進
 - ・当社素材の健康機能探索のため、複数の大学と共同研究
- 事業領域の拡大
 - ・「ファインケミカル・オレオケミカル」「プラントベースフード」「アグリビジネス」の研究を推進



非財務KPI

環境目標	中計目標	昭和産業グループ 環境目標
CO2排出量削減	▲30%以上 (2013年度対比)	2030年度 ▲46%以上
食品ロスの削減	▲30%以上 (2018年度対比)	2025年度 ▲30%以上
水使用量削減 (原単位)	▲9%以上 (2019年度対比)	2030年度 ▲12%以上
プラスチック 使用量削減(原単位)	▲7%以上 (2013年度対比)	2030年度 ▲25%以上

デジタル戦略	中計目標
デジタル化推進	・デジタル化推進費:3年間で45億円 (うち成長投資:12億円)
【主要施策①】 多角的分析DB・ ダッシュボード導入	・顧客情報の有効活用による 営業変革 (顧客分析→顧客提案の充実化) ・コスト削減:▲6千万円/年
【主要施策②】 DX推進人財育成	・将来のDX推進人財: 100名育成 ・ノーコード開発ツールの展開による コスト削減:▲7千万円/年

人的資本経営	中計目標
D&Iの推進	・女性管理職比率: 2025年度 10%以上
戦略的 人的資本投資の促進	・リスク投資額: 2025年度 2倍以上(2021年度比)
従業員 エンゲージメントの向上	・エンゲージメントスコア: 中計23-25期間中に目標値公表

RD&E戦略	中計目標
事業領域の拡大	・冷凍食品事業、新規事業分野における 研究開発の強化 ・海外生産拠点の技術力向上
IT・AI技術の活用	・スマートファクトリーの推進
生産改善活動 によるコスト削減	・コスト削減額: 10億円以上/3年累計

キャッシュ・フローの状況

(単位:億円)

	2024年3月期	2025年3月期	増減
税金等調整前利益	166	164	▲ 1
減価償却費<非資金項目>	102	104	2
運転資金増減(売上債権、棚卸資産、仕入債務)	▲ 22	65	87
法人税等の支払・還付	▲ 35	▲ 51	▲ 17
その他	26	▲ 79	▲ 106
営業活動によるキャッシュ・フロー	237	202	▲ 34
有形固定資産の取得	▲ 108	▲ 115	▲ 7
有形固定資産の売却	2	34	32
投資有価証券の取得	▲ 0	▲ 1	▲ 0
投資有価証券の売却	8	3	▲ 5
その他	▲ 26	▲ 35	▲ 9
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 124	▲ 113	▲ 10
フリー・キャッシュ・フロー	113	88	▲ 24
短期借入金、CP、長期借入金	▲ 69	▲ 33	36
配当金支払	▲ 21	▲ 29	▲ 7
自己株式取得	▲ 0	▲ 34	▲ 34
その他	▲ 2	▲ 3	▲ 0
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 94	▲ 100	▲ 6
現金及び現金同等物の期末残高	81	68	▲ 12

四半期別 売上高・営業利益推移

(単位:百万円)		1Q			2Q			3Q			4Q		
		2024.3	2025.3	増減額									
売上高	食品	73,665	71,315	▲2,350	69,864	67,377	▲2,486	73,545	71,229	▲2,316	65,252	63,610	▲1,642
	飼料	14,967	13,444	▲1,522	14,726	14,068	▲657	15,318	14,670	▲648	14,450	13,979	▲471
	その他	1,166	1,169	3	1,192	1,206	14	1,108	1,187	78	1,100	1,165	65
	合計	89,799	85,929	▲3,870	85,783	82,653	▲3,129	89,972	87,086	▲2,885	80,803	78,755	▲2,047
営業利益	食品	3,353	3,971	617	3,967	2,592	▲1,374	3,889	3,068	▲820	1,639	1,343	▲296
	飼料	▲7	112	120	126	204	78	197	14	▲182	396	153	▲243
	その他	302	385	82	357	351	▲5	352	344	▲7	307	345	38
	全社費用 他	▲336	▲350	▲14	▲412	▲400	12	▲471	▲549	▲78	▲516	▲461	55
	合計	3,313	4,118	805	4,039	2,748	▲1,290	3,966	2,877	▲1,088	1,827	1,381	▲446

【参考】IRに関する活動状況(2024年度)

全てのステークホルダーの皆様へ、グループが目指す方向性を正しく理解していただくことを目的として、IR活動を推進しています。

「フェア・ディスクロージャー・ルール」に則り、速やかな開示を行うことを基本姿勢とし、正確かつ迅速、積極的に情報を提供することで、ステークホルダーの皆様のご要望にお応えしてまいります。

活動	実績	内容
アナリスト向け決算説明会	2回	機関投資家や証券アナリスト向けに、5月(4Q)、11月(2Q)に決算、取り組み内容などをご説明。
アナリスト向け工場見学会	1回	当社主力の鹿島工場(サイロや岸壁、製造工程等)をご案内。
アナリスト・機関投資家向け個別IR	41件	機関投資家や証券アナリスト向けに、事業内容や決算、取り組み内容などをご説明。
機関投資家向けスモールミーティング	1回	機関投資家向けに、事業内容や中期計画内容・進捗などをご説明。
個人投資家向け会社説明会	2回	個人投資家向けに、事業内容やビジネスモデル、株主還元などをご説明。
大株主向け個別決算説明	6回	個別に5月(4Q)、11月(2Q)に決算や取り組み内容などをご説明。